

UENOHARA

広報うえのはら

～頑張るあなたを応援する情報誌～

Public
Relations

1

2023 年
No.215



ご利用ください
広報うえのはら
おトククーポン

29 ページ左端に掲載
ご覧ください!!

新春対談

「道を切り拓く」



上野原市長
村上 信行



株式会社桜ゴルフ 代表取締役
佐川 八重子 さん

新年特別企画・新春対談

「道を切り拓く」

き が わ や え こ
佐川 八重子 さん

1944 年生まれ、千葉県出身。文化服装学院本科修了。26 歳で桜ゴルフを創業。ゴルフ業界でコンサルティング、会員権取引などの事業を手掛け、50 年以上にわたって活躍。趣味はゴルフ、囲碁、小唄、社交ダンス。女性起業家支援をライフワークとしている。2001 年、米国スターグループ・世界優秀女性起業家賞ほか、多数を受賞。

あけましておめでとうござい
ます。今年も市政に対し、みなさん
のご支援、ご協力をお願いします。
今回は新年特別企画として、
『道を切り拓く』と題し、女性経
営者の草分けとして50年以上にわ
たり第一線で活躍されている佐川
八重子さんをゲストに迎え、新春
対談を企画しました。その内容の
一部を抜粋してご紹介します。

■経営者となるまで

村上市長 経営者になるまでの歩
みを教えてください。

佐川さん 千葉県の山武市で生ま
れました。8人兄弟の末っ子です。
高校生のとき叔父に連れられてゴ
ルフ場に行き、広大な緑の芝生や
クラブハウス……別世界を垣間見
て、こんな世界に入りたいと夢見
ました。実際には文化服装学院に
行き、デザイナーになろうと思っ
て勉強していましたが、ゴルフの
ことが忘れられずにいたとき、新
聞広告にゴルフ会社の秘書の募集
があり、これこそ私の本来の仕事
だと飛び込み、現在に至ります。

村上市長 いろいろな転機があっ
て、ゴルフ業界へお入りになった。
私も、全く違うところで生きてき

て、議員や市長になりました。も
ととは禅宗のお寺の坊主で、い
ろいろな経験をしていく中、節目
がいくつかありました。修行のと
きにいろいろな立場の人を見て、
どうにかしなければと感じ、常に
そこから逃げないようにしてきた
ことは確かでした。

佐川さんのように、実業界など
いろいろなところで活躍できる立
場というのは、非常にうらやまし
く感じます。

佐川さん 私ども桜ゴルフは昭和
45年、第一次ゴルフブームの幕開
けと共に銀座で創業、今年で53年
を迎えます。高度成長から低成長
へと激動の中、道なき道を切り拓
き無事今日に辿り着きましたのは
感慨深い思いです。単にモノを売
るのではなく考え方を売る、コン
サルティングを主眼にした営業方
針が評価された結果だと思ってお
ります。

村上市長 実業界というのはとて
も厳しいことがたくさんあったん
だと思います。ご苦労さまです。

昨年、市内のゴルフ場で女子プ
ロゴルフの大会があり、恥ずかし
ながら初めてゴルフ場というところ
に入りました。広大なグリーン
の綺麗さに感動しました。

佐川さんに遅れること数十年、
私もその感動を味わわせていた
だきました。

行政放送 新春対談の様子は UBC で放送されます。

■放送期間 1月1日(日・祝)～8日(日)

※放送時間などは、上野原ブロードバンドコミュニケーションズ(UBC) ホームページの行政放送番組表でご確認ください。

■人生の節目、出会い

村上市長 人生の節目節目でどんなことがありましたか。

佐川さん 10年目はゴルフ場経営の失敗、20年目はバブル経済の最盛期にあつて狂乱相場の火消し役を務め、30年目はバブル崩壊の直撃による相次ぐゴルフ場の倒産、40年目はリーマンショック、東日本大震災。50年目は予想もしなかったコロナ禍と、試練の連続でした。そのような中にあつても、田中政権の高度経済成長政策もあり、創業3年目には32億円、平成元年には300億円の売り上げを女性だけで達成しました。

創業当初、「女の経営者に金はない」と堂々と言われたことが懐かしく思い出されます。ゴルフ界は一般的には男性社会といわれていますが、ゴルフ場で働く方は女性が過半数を占め、きめの細かいサービスを提供しています。

村上市長 そういう女性が上野原市にたくさんいることも知っています。市としても、女性が進出できるように社会を作っていくかなければと思っています。

佐川さんは人生の中で、どんな人に出会いましたか。

佐川さん ゴルフという仕事柄、お客様には社会的地位の高い方が多く、そのような方々の警戒に接

したことは私の大きな財産になりました。思い出深いことは、日本興業銀行の頭取の故正宗猪俣さんとの出会いがあつたことです。いつも温かい目で見守ってくださり、「中庸の精神」を養うためのどれほど大きな存在だったかしれません。

■愛語

佐川さん 市長さんは僧侶でいらつしやるんですね。日本も経済が衰退し、人は心に傷を抱えています。今こそお坊さんの役割は大きいと思います。私も創立30周年の時、なぜか虚しく心が止まっていまいました。その時、松原泰道先生の『道元』という本に出会いました。

道元の難解な哲学書をわかりやすく説明するこの本を通じて、心に残つたのは「愛語よく廻天の力あるを学すべきなり」の一文。「愛語」とは思いやりのある言葉のこと。優しい言葉には天地をもひっくり返す力があるということ、言葉をとて大切にしています。

村上市長 「和顔愛語」ともいいますね。和やかな顔で、優しい言葉で相手に接することで、大勢の視線が集まるというか、従業員の方も一つにまとまるというふうな経営者の哲学の一つでしょうか。

■挫折はありがたいこと

村上市長 それ以外にも、経営者としての哲学はありますか。

佐川さん 社訓として「礼節なくしてビジネスなし」を掲げています。さらに大事にしていることは「人生やさしさ」だと思います。

私の実家は父が工務店を経営し、大工の奉公人が7、8人住み込みで働いておりました。母は彼らを家族のように可愛がり、「使用人大事」でお食事や美味しいものは全て使用人が先でした。従つて、皆よく仕えてくれました。うちの従業員もとてもよく働いてくれるのは、私がこの教えを少しは受け継いでいるからでしょう。

村上市長 大勢の人との「一期一会」があるほど、その人が豊かになつていく気がします。私も市長になつてみて、私よりも職員のほうがずっとずっと優れているなと感じています。若いときから大勢の人たちと付き合わせていただいています。そういう方たちの生きざま、人生、経験が、知らないうちに私の中に入ってきました。

若い頃、嫌だなと思っている人がある日、突然いい人になつていたときがあります。その人に何があつたかというと、大きな病気をした。生死を分けるような病気をしたことによって、その人は変

わつた。人生にとって、「どん底」という表現がいいかどうかはわかりませんが、どの段階でどん底を味わうかによって、その後、永く充実した人生を送ることができると思います。なるべく早く、負荷がかかる経験をするというのはすごく大事だと思います。佐川さんもたくさんいろいろなことがあつたんだと思います。

佐川さん 私の人生で一番大きな出来事は、やはりゴルフ場事業の失敗です。共同経営者の背信行為で経営を撤退する羽目になるのですが、なかなかその相手が許せなかつた。「良かつたことは人のおかげ、悪かつたことは自分のせい」。このように解釈しないと物ごとは前に進みません。挫折はありがたい経験だと思います。

村上市長 きわめてポジティブな発想ですね。

佐川さん 長い人生、趣味にも助けられました。創業間もないころ、銀座の老舗の旦那衆にご挨拶をしたとき、「会つてすぐ商売をすることはやめなさい。趣味を極めて人間関係ができるとやがて仕事はついてくる」と、「三ゴの趣味」を勧められました。

一つはゴルフ。それから「囲碁」。もう一つは「小唄」です。趣味を持つことで心にゆとりができ、潤いのある人生を送ることができます。

(次ページへ続きます)



■上野原市長 上野原市
のご縁は。

■上野原市との縁

女性起業家の育成と支援を核にしています。

その後、NBCでの活躍を見ていた日刊工業新聞の社長より、東京産業人クラブ（異業種交流組織）の中に女性部会を作ってほしいと頼まれ、以来25年会長を務めております。女性部会は疲れた羽を休めるオアシスのような存在を目指し、女性起業家の育成と支援を核にしています。



■女性起業家支援

佐川さんは、女性起業家の支援もされているとお聞きしています。

佐川さん 1985

5年前、上野原カントリークラブ（CC）の30周年記念募集を前経営者より頼まれ、募集業務を請け負ったことがご縁です。

お仕事を一緒にさせていただくにつけ、従業員の皆様の働きぶりの素晴らしさを目の当たりにし、そのような従業員を育てた上野原市はどのようなところかと興味を持ちました。

桐原地区は、長寿村として有名です。

■村上市長

桐原が長寿村と呼ばれる所以は、雑穀食が中心であったこと。斜面を歩き、バランス感覚がしっかり体に植え付けられたことにあると思います。

桐原の郷土料理で有名なのが、小さな「じゃがいも」（せいだいも）を無駄なく使うために、皮付きのまま油で炒めて味噌でゆつくり味をつけていく「せいだのたまじ」があります。美味しいですよ。

中井清太夫という代官が、救荒作物として奨励したという歴史があります。

佐川さん 今度いただいてみます。

上野原の酒まんじゅうは人気があつて、いつもおみやげに買って帰ります。あんこがたくさん入っているもの、皮が美味しいもの、いろいろありますね。

■村上市長

お店ごとに個性がありますね。

上野原市との縁を取り持った上野原CCは、どんなゴルフ場ですか。

■佐川さん

開場して今年で37年を迎える、本拠地を上野原市に置く唯一のゴルフ場です。緑豊かなゆるやかな丘陵地に展開する上野原CCは、「戦略性が高くコースが良い」「東京から1時間という好立地」「会員重視の運営が好評」と、3拍子揃った稀有なゴルフ場です。さらに、キャディさんの評判はピカ一です。

現在の経営者は東証プライム市場上場の物流大手AZ・COM丸和ホールディングス創業者である和佐見勝氏です。立派な人物です。40年来の友人で、2年前に上野原CCの経営を引き受けいただきました。

私は、上野原の子どもたちにぜひゴルフ場を見せて、情操教育の一環としていただきたいと思います。今後、上野原CCが地元の方々に愛されるゴルフ場になるよう、コースの方と一緒に努力したいと思っています。

ところで、上野原市近隣にはたくさんコースがありながら、ゴルフファアが泊まる場所がなく困っています。ホテルができていいですね。

また、地元の食材を使ったレストランがあると嬉しいですね。

村上市長 今のお話を受けて、市民の方々の中から「私が起業しよう」という話が出てくれば、ありがたいですね。

■道を切り拓くということ

村上市長 佐川さんの50年間の努力は、まさに「道を切り拓いてきた」と感じます。

そういう目線から、上野原市が発展する、道を切り拓いていくためにはどうしたらよいと思うかお聞かせ願えますか。

佐川さん 繰り返しになりますが、美しい自然、恵まれた立地、あたたかいお人柄など、発展の大きな可能性を感じています。

山梨の玄関口・上野原には、さらにPRに力を入れていただくことにより、もっとたくさんの方に来ていただける街になっていただけることを期待いたします。

村上市長 「都会と田舎のいいところ取り」ができる上野原市です。市民全体がひとつになって活性化していくことが、道を切り拓く原動力になると思います。

今後、いろいろご指導をいただけるとありがたいと思っています。

本日はありがとうございます。